



校長室だより

令和8年度
10月23日
NO.24

不自由・不便の中で考え行動する体験を通して…秦梨の山で山学する！

『自らに問いかける』とは自己理解（自分を
知ること）であり、自省（自分を省みること）
でもあります。そして、それは自己成長を促す
力でもあるのです。」
『自分に問うということ。』

（リベラル新書） 齋藤 孝 著



ドキドキしながら、わくわくしながら、びくびくしながら、主体的に体験した山の学習

「奥山に紅葉踏み分けなく鹿の声の聞く時ぞ秋は悲しき」（猿丸太夫）と百人一首にあるように、（まだ紅葉は踏み分けていませんが）鹿の鳴き声にどこか人恋しく、秋が深く感じられました。耳を澄ますと普段気にならない自然の音が森に響き、同じ秦梨学区でありながらどこか異世界のようにも感じます。五年生にとっては初めての、六年生には二度目の「山の学習」が、十九、二十日の二日間、少年自然の家で行われました。

普段の生活でも、また授業の中でも、「あれ、これどうしたらいい」という場面があります。（意識をしていないと、何も考えずに過ごしてしましますが…）五年生にとって初めての山の学習の様々な場面で、また今まで出会ったことのない場面の中で、きつと思うこともあったと思います。「どうしたらよいか」分らない場面で、「自分はどうするのか」と、自分で考え実行することは、（当たり前ですが、）生きていく上で大事な思考・決断になります。もちろんそれほど大きな決断ではない場合もありますが、とにかくやらなければ身につかないこともあります。「自分で課題を解決する力」が求められる今の時代、秦梨の子にとって、なおさら必要な力となります。

自分たちでやらなければならないことが多い山の暮らしの中で、きつとこれまでやらなかったことを、子供たちは体験し、それを解決することができました。炊飯活動や落ち葉スキー、天候による急な予定変更や様々な場での司会等、親元を離れた仲間との生活には、様々な困難もありましたが、子供にとってかけがえのない経験になりました。「自然」は人間の都合で変更できるものではありません。様々な環境の中でどう生きていくか、考えられる秦梨っ子であってほしいと願います。

- ・19日～20日、天候による予定の変更はありましたが、5、6年は元気に山の学習に行ってきました。応援、ご支援ありがとうございました。
- ・28日は小学校陸上大会が龍北スタジアムで行われます。6年生にとっては、最後の部活動の大会になります。短い練習時間ですが、大会に向けて頑張ってきた子供たちを、ぜひ、応援お願いします。また送迎等をお願いすることもあります。ご支援よろしくお願ひいたします。